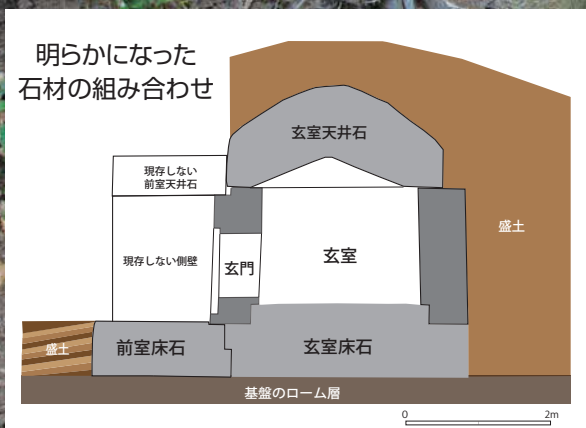


徹底解剖！ 出雲東部の首長墓

せつ かん しき せき しつ

石棺式石室の謎に迫る

令和元・2年の発掘調査で
新たな発見！



山代原古墳の石棺式石室

やま しろ はら こ ふん

山代原古墳 (松江市山代町)

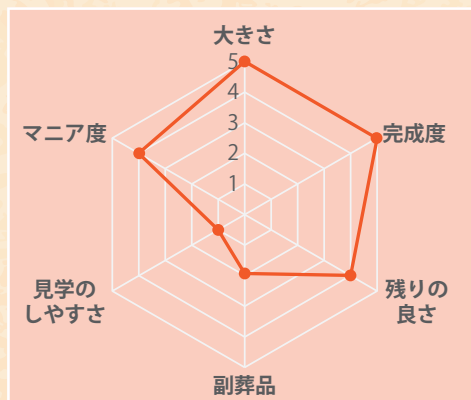
山代原古墳は、松江市の大庭町から山代町にかけて広がる「大庭・山代古墳群」の1つで、もっとも新しい7世紀前半(約1,400年前)につくられた。

出雲東部に特徴的な「石棺式石室」の到達点とも言える美しい石室をもっている。令和元・2年度の調査により、①方墳の可能性が高いこと、②床石ですべての壁石を支えていること、③目に見えない部分まで丁寧に加工して石を組み合わせていることが明らかになった。

山代方墳の後継者が葬られた大首長墓と考えられており、当時の最新技術の集大成を見ることができる。

※一般公開はしていません。

出雲東部を代表する最後の大首長墓



徹底解剖！ これが石棺式石室だ！

棺を納める部屋(石室)には主に**縦穴系**と**横穴系**があり、古墳時代の終わり頃(6～7世紀)には横穴系が流行します。横穴系には大きく**横穴式石室**と**横穴墓**があり、横穴式石室の一種が**石棺式石室**です。横穴式石室では、通常、多くの石を積み上げて部屋をつくり、一方、石棺式石室は、壁や天井、床を一枚の石で作り、石室全体を家形の棺(石棺)のような形に組み合わせることからこのように呼ばれます。

石室全体を棺として見立て、
外観を家形にデザインする
「見える石室」

特徴

1

玄門を一枚の石をくりぬいて作り、閉塞石を受ける段を掘り込む。



玄門の掘り込み部分にはしっかりと閉塞石がはまる。



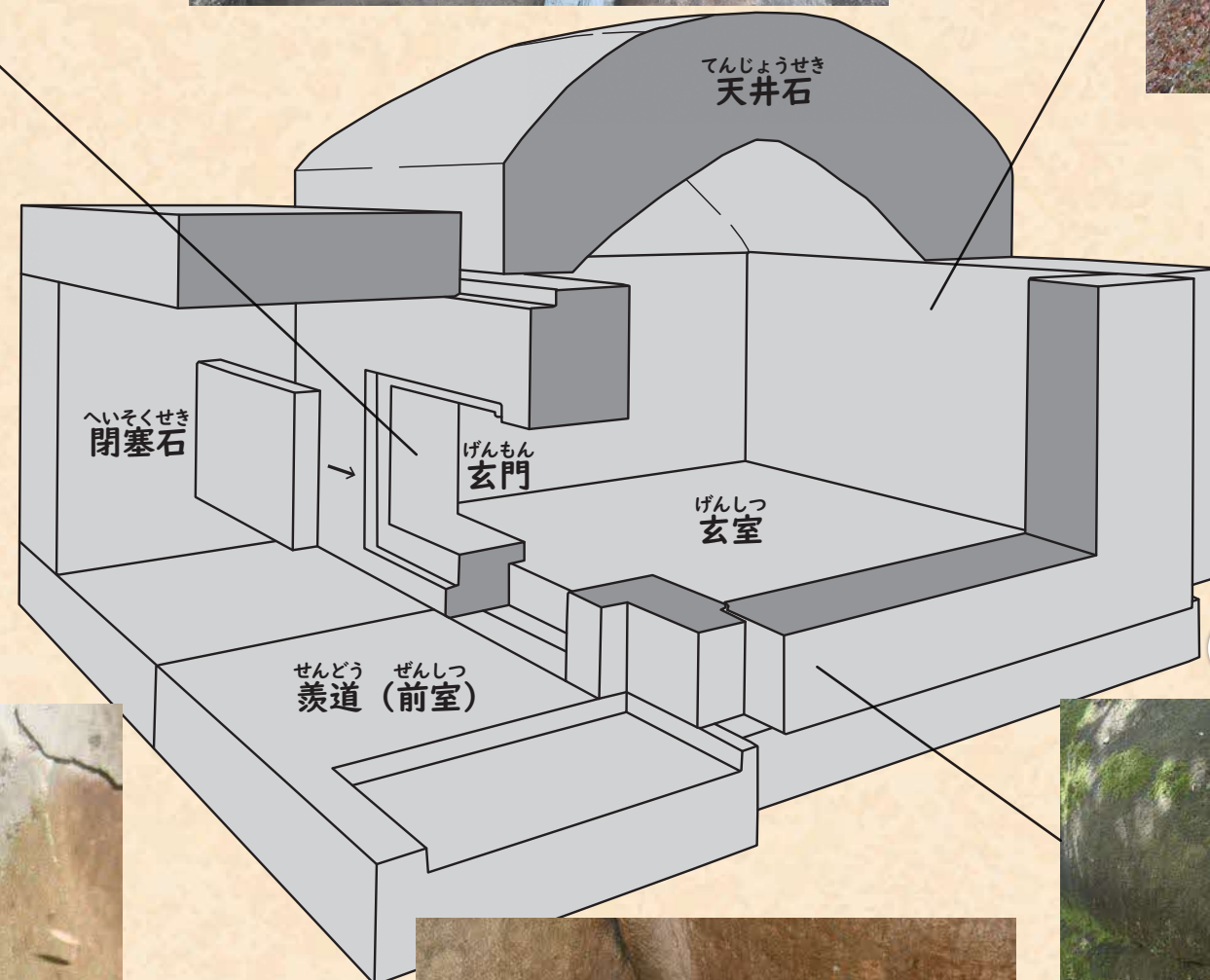
特徴

2

切石(削り整えた石)を使う。工具で石をけずった痕が残る石室もある。



天井石もしっかり屋根形にけずる。



特徴

3

壁・天井・床をそれぞれ一枚の石でつくる。



石が足りない部分には別の石を
ぴったりとはめて一枚石を意識。

特徴

4

左右の側壁を前後の壁石で挟む。



遺体を納める棺や
造り付けの棺台が
残る石室も。



石棺式石室大集合!

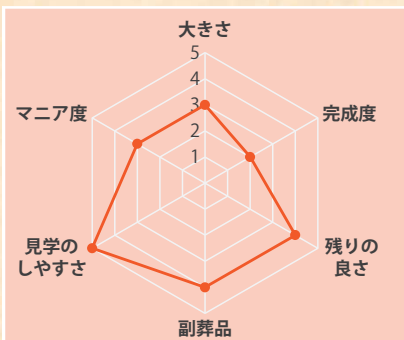
石室を6つの目線で分析!

出雲東部に特徴的に分布する石棺式石室。主なものを一挙に紹介します。古墳調査班独自の目線でレーダーチャートをつくりました。ぜひ現地を見学していただき、お気に入りの古墳を探してみてください。

- ① **大きさ**：玄室の面積で比較
- ② **完成度**：条件やつくりの丁寧さ
- ③ **残りの良さ**：石室自体の残り具合
- ④ **副葬品**：被葬者のランクを示す
- ⑤ **見学のしやすさ**：道や埋まり具合
- ⑥ **マニア度**：史跡指定や看板の有無

伊賀見1号墳(松江市宍道町)

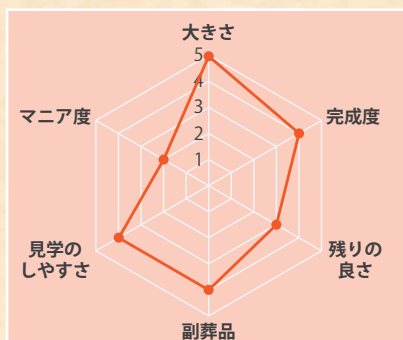
閉塞石にかんぬき形の陽刻が残る貴重な古墳。天井石がないのが残念。須恵器や鉄器が出土。



0 10 km

岩屋後古墳(松江市大草町)

最大の石棺式石室。巨大な一枚石は大迫力だ。人物埴輪が出土したことも有名。

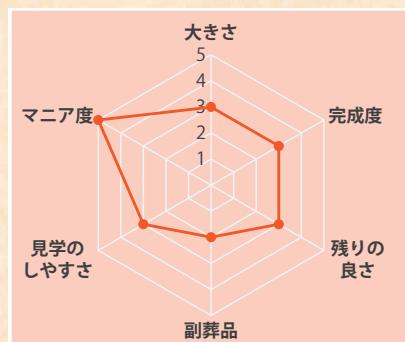


太田古墳群(松江市東持田町)

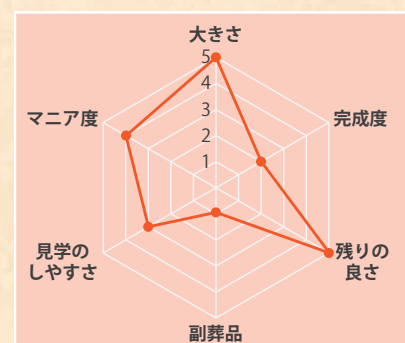
住宅街の中に5基の石棺式石室が集中する。民家の中にある古墳もあるので見学の際には許可をとって入ろう。副葬品はよくわかっていない。



太田2号墳

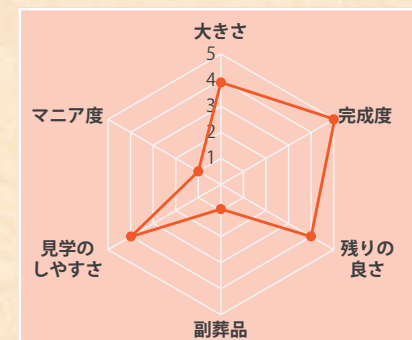


朝酌岩屋古墳(松江市朝酌町)



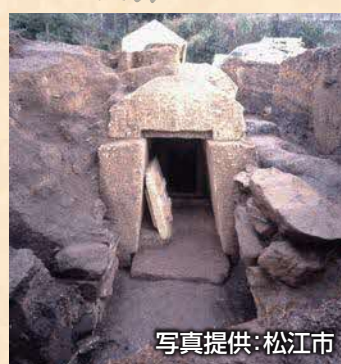
壁石が一枚石でないなど、定型化前の古い時期の石室と考えられている。民家の中にひっそりとあるため、見学は許可をとってから。

飯梨岩舟古墳(安来市飯梨町)

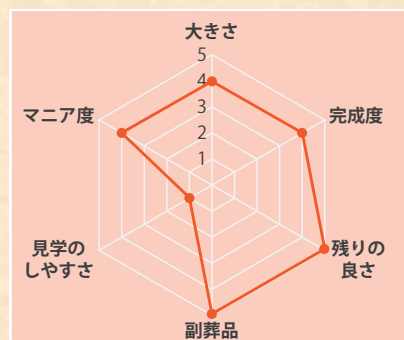


石棺式石室の典型と言える美しい石室。石を丁寧に加工している。見学もしやすく、一度は訪れたい石室だ。玄室内部には石棺が残っている。

向山1号墳(松江市山代町)

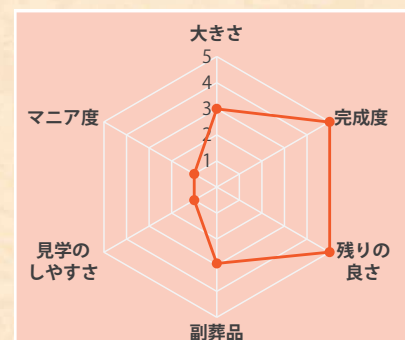


写真提供: 松江市



石棺式石室の「見せる石室」という性格が良くわかる古墳。古墳をつくる途中、石棺を完全に埋める前に祭祀が行われたことがわかった。馬具など優品が出土。現地見学はできないが、ガイダンス山代の郷に復元模型がある。閉塞石には伊賀見1号墳と同じかんぬき形のレリーフがある。

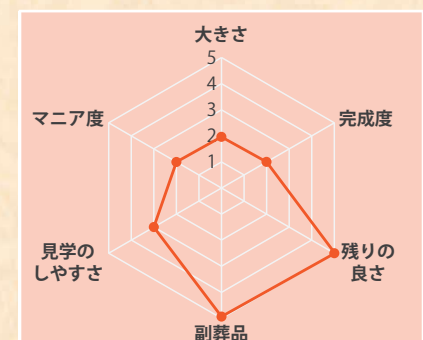
山代方墳(松江市山代町)



出雲全域を治めた大首長の墓と考えられるが、石室は意外と小さい。石室内に土が入り込んでおり、入るには勇気が必要。

古天神古墳(松江市大草町)

切石の使用以外は石棺式石室の条件から外れるが、外観を家形にするなど、石棺式石室の成立に関わる重要な古墳。多くの須恵器、鏡、馬具など一級品が出土し、東京国立博物館が所蔵。駐車場や看板があるが、少し山登りが必要。



石棺式石室もいろいろ！ 個性豊かな石室たち

石棺式石室は共通した特徴もありますが、どれ一つ同じものはありません。ここでは個性豊かで見学必見の石室たちを紹介します。



天井の内側を見上げてみよう！
天井石の内側は本当に個性豊か。屋根のようにへこませたもの、線刻を入れただけのものなどさまざま。

現地へ行って、観察して、比べてみると違いがよくわかる



天井と壁の外側にある“でっぱり”

これは‘縄掛突起’と呼ばれるもので、石を運ぶ時にここに縄をかけたと考えられる。石の棺によく見られるものだが、石棺式石室で観察できるのは珍しい。盛り土をすれば見えなくなってしまうところまでこだわりを感じる。まさに石棺を意識した石室であることがわかるだろう。



石を組み合わせる職人たちの丁寧な仕事
完成度が高い大きな石室はそれだけでなくくもりも丁寧。石をはめ込むために溝を掘り込んでいます。工具でけずった痕もよく見えます。

石棺式石室をつくろう！ 石棺式石室のペーパークラフト

埋蔵文化財調査センターでは、近年石棺式石室をはじめとした横穴式石室の3D記録を行っています。3Dによる記録は保存・活用それぞれに有効な記録方法です。作成した3Dモデルは様々な活用方法を考えていますが、その1つがペーパークラフトです。

ペーパークラフトでの石室づくりと現地見学を組み合わせることによって、石室の構造やつくり方をより深く学ぶことができます。難易度別にいくつかの種類を用意していますので、親子で体験することもできます。(下記HPからダウンロードできます！)



島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器

まいぶん

No.69 発行: 令和5年8月

編集・発行
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 松江市打出町33
TEL.0852-36-8608 FAX.0852-36-8025
E-mail.maibun@pref.shimane.lg.jp
<https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

